

その10 夏の雑草

7月、私の畑でヒマワリが咲きました。
一昨年から30坪程度の畑で地道に野菜を育てています。月に一回程度、まとめて雑草抜きをする中、こいつは怪しいと思って抜かないでいた植物がヒマワリでした。勝手に生えてきたので雑草ですが、愛らしい雑草です。

もう一つ、私の畑の愛らしい雑草がマルバルコウです。(駆除に夢中になり良い写真をとれず、ヒマワリの写真になりました。)

マルバルコウは熱帯アメリカ原産のつる性植物で、秩父地域では大豆・そば畑での厄介な雑

草として防除が呼び掛けられています。綺麗な花を咲かせますが、いくらでも生えるため私も厄介者として認識し始めました。すると外来種という認識も相まって、今は嫌いになりつつあります。ただし、外来種という言葉は、あくまで科学の世界の言葉であり、感情とは一線を引かねばと思うこの頃です。(松本 薫)



会員のつづき

■ 天覧山の谷津の外来種駆除をもう10年以上続けている。最初は、オオブタクサをすべて駆除した。翌年、まだまだ生えてくる。4年目くらいから目立って数が減ってきたので、次はセイタカアワダチソウを標的にし、最近ではアメリカセンダングサ、コセンダングサ、オオフサモも駆除している。谷津のような小さな閉鎖的空間なら、1人でもある程度効果的な駆除ができるので、やってみたらいかがでしょうか。もちろん地主さん了解済みで、でも、いまだにオオブタクサは生えてきます。(大石 章)

その11 近くにいるほしい生きもの

見て楽しい、有害でない、薬剤など多様な環境に感受性が高い、逃げずに定着しやすいなど要件は多い。街中に生態補償的なオアシスを設け餌植物や蜜源植物を植栽し待つ。ジャコウアゲハは早朝、雨戸をあけるとひらりひらり飛んでいる。朝から気分よく一日中楽しい。但し春に羽化した成虫が数日にして消える年があり逃げられたかと思いがっかりすることがある。短気を起こさず食草(ウマノスズクサ)や蜜源植物(ブツレアやハーブ)を温存しておく、夏至前後の2回目成虫期に翅の朽ちた熟蝶が吸蜜と産卵に舞い込んで来る。見た瞬間気分は一気に回復。

アオスジアゲハも大事に温存したい。春先ダイコンの花で吸蜜した後、水田で吸水しているのを見かけるが、いつもツバメのように素早く飛び去りゆっくり眺めることは稀である。これも気長にクスノキやシロダモ、蜜源植物を植栽しておく2回目群と思える成虫が新芽や新葉に産卵しに来る。半日陰に飛来するアカタテハやルリタテハ、これは脅かさない限り定着してくれる。タマムシ(写真)、木々の先端を舞っているのを見かけるが、なかなか近くで観察できない。平地林を漫然と歩いているだけでは20~30年に一度くらいしか捕虫網に入らない。しかしエノキの葉を与えるとよく摂食する。これも定着してくれると生活の質は向上すると思う。(平井一男)



いろいろ生きもの通信 No.6

- 発行日 2018年9月1日
- 発行 NPO法人 いろいろ生きものネット埼玉
- 事務局 さいたま市大宮区大門 3-205ABCビル303
- e-mail iinet.saitama@gmail.com

いろいろ生きもの通信

NPO法人 いろいろ生きものネット埼玉

優良物件募集中(コアジサシが営巣地を探しています)

コアジサシをご存知ですか?夏に南半球から日本に飛来して繁殖する渡り鳥です。本来は海岸や中州などの植生のない裸地を好み、地面に直接卵を産み付け、地熱を利用して?抱卵するちょっと変わった習性の鳥です。

4年前に越谷レイクタウンの土砂置き場、造成地、民間駐車場で営巣し、繁殖も確認されました。

その後、住宅建築が進み空き地がなくなると共に駐車場の空きスペースも無くなり、コアジサシが営巣することもなくなりました。

希少種(環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類、埼玉県レッドリスト絶滅危惧ⅠB類)であるコア

ジサシの営巣地を確保して、繁殖を成功させることを目的に当団体のメンバーが中心になり、昨年「ウェルカムコアジサシ」という団体を結成しました。

越谷レイクタウンの池に、宮崎県で実施して成果があがった「繁殖用いかだ」を設置するとか、イオンの屋上や近くの学校の屋上をお借りするとか、いろいろと手を尽くし「いかだ浮上実験」まで実施しましたが、残念ながら、営巣地の設営には至りませんでした。

県内では大規模造成地で何度か繁殖しています。また羽生水郷公園の臨時駐車場で3年前まで継続して繁殖していましたが、草が生えてきたこ



コアジサシ



コアジサシの営巣したレイクタウン駐車場 2014.7.20

とに加え、カラスの食害のため営巣しなくなっていました。

春日部ウィングハット臨時駐車場にも少数ですが、コアジサシが連続しては営巣しています。今年も営巣しましたが、イベントのため駐車場に車が入り出すことになり、春日部市並びにウィングハット担当者の協力のもと、巣をカラーコーンで囲み、テープで車が侵入しないようにしました。さらに知り合いの埼玉県鳥獣保護管理員の方たちが、イベントに来た車を誘導してくれました。

何とか3ペアが営巣を続け、その後、1ペアだけが残り写真のように雛を見ることができました。



ウィングハット臨時駐車場のコアジサシ幼鳥 2018/7/15

こんなところと思うような場所ですが、それだけ営巣地が不足しているため、コアジサシは必死で営巣地を探しているようです。

実は、東京都大田区の森ヶ崎水再生センター屋上のコアジサシは2002年以来、毎年安定的に繁殖に成功しています。3年前に当団体で森ヶ崎の繁殖地を見学した後、埼玉県の下処理場屋上を営巣地として活用できないか、県の下水道局にお願いに行きましたが、空いている場所はすべてソーラーパネルの設置予定となっていることがわかり断念しました。

県内の河川敷では利根川に営巣地があったのですが、シナダレスズメガヤという外来種が営巣していた中島を覆ってしまい、ここでも見られなくなりました。

南半球からはるばる日本に渡ってくるコアジサシたちに優良な営巣物件を紹介していただけないでしょうか?(小峯 昇)

第4回生きものフォーラム

当会では、生物多様性などの課題について、多くの方々と情報や意見を交換する場として、「生きものフォーラム」を定期的に開催しています。第4回目は次のとおり開催いたしました。

増加する外来の虫たち

～現状と対策を考える～

日時 平成30年2月3日(土) 13:30~16:30

会場 さいたま市産業文化センター ホール

参加人数 181名

【プログラム】

■ 講演1 13:35~13:50

「クビアカツヤカミキリなど外来昆虫の埼玉県内の状況」

嶋田知英(埼玉県環境科学国際センター 研究推進室副室長)

■ 講演2 13:50~14:50

「外来昆虫防除の最前線 ～如何にして確実に減らすか、根絶するか」

五箇公一(国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室室長)

■ 講演3 15:00~15:50

「ついた島は宝の山 ～サクラ・ウメ・モモを加害するクビアカツヤカミキリの被害と対策～」

加賀谷悦子(国立研究開発法人 森林総合研究所 穿孔性昆虫担当チーム長)

■ 講演4 15:50~16:00

「外来種クビアカツヤカミキリ駆除への取り組み」

加納正行(埼玉県生態系保護協会草加八潮支部)

■ 質疑応答・討論 16:00~16:30

進行: 平井一男(東京農業大学客員教授)

まず主催者から、今、ヒアリなど様々な外来の虫が問題になっているので、その概要を学ぶとともに、本県で顕著となりつつあるサクラを枯らすクビアカツヤカミキリの実態と駆除方法を知り、関心を高めることが今回のフォーラムの狙いであるとの挨拶があった。

講演1では、現在、埼玉県内には植物、昆虫、動物など様々な外来種が侵入していることが事例とともに紹介された。今や外来種を全て排除することは不可能であり、希少種に悪影響を与える、人の健康被害がある、農作物等に被害を与えるというものについて対策をとる必要があるとの説明があった。

講演2では、外来種を防除するのは生物多様性を守るためであり、生物多様性がなければ結局は

人間が困るからであるとの説明があった。その後、世界で初めてアルゼンチンアリの根絶した化学的防除(薬剤防除)の事例が紹介され、早期発見・早期対策で確実に防除が可能であり、現在、国立環境研究所ではヒアリについて対策を進めていることが紹介された。こうした化学防除を進める上では地域での合意形成が重要であることが強調された。

講演3では、中国を中心にロシアやベトナムに分布するクビアカツヤカミキリが、平成23年に埼玉県深谷市で発見され、現在までに7都府県で確認され、平成30年1月に特定外来生物に指定されたことが紹介された。中国ではモモでよく見る害虫のようであるが、日本はバラ科の樹木がたくさんあり、この虫にとっては宝の山だったのではないかと、今後はサクラから果樹への被害拡大が懸念され、今こそ、サクラやモモを大事に想う人が立ち上がるべきとの説明がなされた。

講演4では、草加市でのクビアカツヤカミキリの駆除に取り組んだ事例が紹介され、市民と行政との協力の重要性が強調された。

最後に質疑応答・討論では、サクラの木の見回りの方法、個人宅のサクラを伐採する場合の支援策の必要性などについて活発に質疑応答がなされた。

ご参加いただいた皆様、ご講演いただいた方々、ご支援をいただいたサイサン環境保全基金様に心よりお礼を申し上げます。(星野弘志)

事ではない』雰囲気醸し出していました。

すぐに携帯電話を取り出して現地からこの状況を連絡をした相手は、埼玉大学の名誉教授で日本セミの会の代表幹事でもある林正美博士。直後に林先生らと調査グループを立ち上げ、現地調査に



乗り出しました。

10名ほどの調査グループでいろいろと調べた結果、このセミは中国大陸原産で幼虫がタケ類の地下茎で吸汁して成長する *Platylomia pieli* という大型種だということが判り、分類学的にはツクツクボウシの仲間に近いことから、「タケオオツクツク」と名付けられました(図1)。

そして、それは2011年に川口市北部で小学生によって拾われていた日本の在来種とは明らかに異なる謎のセミの死体とも合致し、このセミが少なくとも2011年頃には川口市北部で発生していたらしいことも明らかになりました。

2017年夏には調査グループによって川口市赤山を中心に詳細な調査がおこなわれ、さいたま市緑区の1ヶ所を含む川口市北部の約10ヶ所で鳴き声



図1 上: タケオオツクツク オス
下: アブラゼミ オス

クビアカツヤカミキリ観察会 2018年

7月8日(日) 10:30 集合、場所; 深谷市武蔵野(下郷高木集会所)。参加者(敬称略); カミキリ対策有志7名(小川、石田、丸井、池田、金子、内山、志村)、いいねネット5名(脇坂、星野、小峯、三輪、平井)、地元町内会2名の計14名。

観察地は県内屈指の植木の里。到着すると、町内会長と役員(吉岡、斎藤)が既に集会所を開放、その間カミキリ2個体を駆除しペットボトルに収納し待機していた。参加者の出欠後、脇坂代表理事の挨拶に続き、三輪会員がガイダンス、関係資料を配布し観察に入った。

荒川中部土地改良区管理の用水路の路肩北の桜並木、グーグルマップで測ると約300mあった。町内会長によるとソメイヨシノ64本植栽、うち10本



が確認されましたが、その範囲は東西2km、南北4kmほどのエリアに集中しており、その時点では本種の生息域は思いのほか狭い範囲に留まっていることが判りました。

赤山での調査では、非常に多くの個体が発生している(図2)ことが確認されるとともに、成虫は昼間はモウソウチクや広葉樹の枝葉

の茂みの中に潜んでいて姿を見せず、日没前後の1時間程度だけ鳴くという不思議な生態も確認できました。在来種のセミと大きく異なるそのような習性が、このセミの存在に気づくのを遅らせていたのだらうと思われる。

中国での研究では、このセミは卵から成虫まで1世代6年かかるとされており、このセミがどのような侵入経路でいつ頃この地に定着したのか、現在も調査・研究を進めています。(碓井 徹)



図2 登りやすい竹の皮に集中したタケオオツクツクの脱皮殻(川口市赤山)

が被害にあったとのこと。

早速並木を見ると、最西樹に雌成虫が樹皮上を歩いていた。2本目にはフラスが出ていたので、町内会長が根元近くの樹幹にノミをあて金槌で叩くと内側に中齢幼虫が1個体見えた。成虫まであと2年かかりそうなテッポウムシであった。

さらに東進すると、雌雄が見つかった。ポリ袋に入れるとすぐ配偶姿勢(上翅に艶がある下方が雌)、先に進むと2本の樹から各1個体ずつ見つかった。今回は運よく成虫盛期だったようで合計7個体を発見した。すべて殺虫し分散を防いだ。

昼前に反省会と今後の取り組みについて意見交換し解散した。いいねネット会員は緑の王国に向かい梅の樹を調査、数本からフラスが出ているのを観察した。(平井一男)



外来種のセミ タケオオツクツク

2016年の夏に希少な昆虫の調査で偶然に訪れた川口市赤山で、私は突然、聞き慣れない鳴き声のセミの大合唱に包まれました。もうすぐ日没という薄暗い時間帯に急に大きくなりだしたその機械音のような鳴き声のシャワーは、明らかに『ただ